

2026年10月

Nの逸脱

夏木志朋

日常生活を送る。平穏な日々がうれしいようなもの足りないような。そのような日々を送りながらもそれぞれが喜怒哀楽を感じているのが人間。そんなある日、突如として目の前に平穏を打ち破る思いもよらないできごとが起こる。さてどうしよう。逸脱する前にまだ逸脱していないのだから、逸脱しないという選択肢もある。葛藤する・・・。逸脱が・・・。逸脱をしてしまうともう後には戻れない。逸脱中もいろいろな思いを巡らすが、逸脱してしまった自分がいることは、まぎれもない事実である。ストーリー性、心の描写をものの見事に描かれています。2025年直木賞候補作。ときどきしながらお読みください。

